

科 第 189 号  
平成 30 年 11 月 20 日

後援機関 各位

岩手県政策地域部科学 ILC 推進室長



平成 30 年度岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業表彰式の開催について  
平素より、本県の海洋研究の発展に御尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。  
いわて海洋研究コンソーシアムでは、研究機関の相互連携のもと、三陸海域で研究を実施している若手海洋研究者に発表の機会を設けることにより、研究者の育成と更なる研究活動を奨励し、将来に向けた海洋研究拠点形成の礎を築くとともに、交流人口の増加を通じた地域振興を図ることを目的として「岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業」を実施しております。

このたび、標記について下記のとおり開催いたしますので、御多忙のところとは存じますが、御出席下さるようご案内申し上げます。

記

- 1 日時 平成 30 年 12 月 18 日(火) 14:45~16:15
- 2 場所 岩手大学理学部 銀河ホール (岩手県盛岡市上田 4-3-5)
- 3 内容

(1) 岩手県三陸海域研究論文知事表彰 表彰式 14:45~15:00

- ・選考経過報告 (東京大学大気海洋研究所 国際沿岸海洋研究センター長 河村 知彦)
- ・表彰及びお祝いの言葉 (岩手県政策地域部長 白水 伸英)

[岩手県知事賞]

- (学生の部) 小玉 将史 (東京大学大気海洋研究所)  
(一般の部) 山田 美和 (岩手大学農学部応用生物化学科)

[特別賞]

- (学生の部) 阿部 貴晃 (東京大学大気海洋研究所)  
(学生の部) 片寄 剛 (北里大学大学院海洋生命科学研究科)  
(一般の部) 早川 淳 (東京大学大気海洋研究所)

(2) 受賞者から報告～研究論文の概要と今後の取組・抱負～ 15:00~16:15

※発表 15 分

担当 : 科学技術担当 吉田  
電話 : 019-629-5252  
Email : ko-yoshida@pref.iwate.jp

平成 30 年度  
岩手県三陸海域研究論文知事表彰 表彰式  
開催要領

**1 趣旨**

いわて海洋研究コンソーシアムでは、研究機関の相互連携のもと、三陸海域で研究を実施している若手海洋研究者に発表の機会を設けることにより、研究者の育成と更なる研究活動を奨励し、将来に向けた海洋研究拠点形成の礎を築くとともに、交流人口の増加を通じた地域振興を図ることを目的として「岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業」を実施している。平成 30 年度の受賞者が決定したため、表彰式を行い、併せて受賞記念の講演を実施するもの。

**2 日時**

平成 30 年 12 月 18 日(火) 14:45~16:15

**3 場所**

岩手大学理工学部 銀河ホール (岩手県盛岡市上田 4-3-5)

**4 主催**

岩手県、いわて海洋研究コンソーシアム

**5 内容**

**(1) 岩手県三陸海域研究論文知事表彰 表彰式 14:45~15:00**

- ・選考経過報告 (東京大学大気海洋研究所 国際沿岸海洋研究センター長 河村 知彦)
- ・表彰及びお祝いの言葉 (岩手県政策地域部長 白水 伸英)

[岩手県知事賞]

- (学生の部) 小玉 将史 (東京大学大気海洋研究所)
- (一般の部) 山田 美和 (岩手大学農学部応用生物化学科)

[特別賞]

- (学生の部) 阿部 貴晃 (東京大学大気海洋研究所)
- (学生の部) 片寄 剛 (北里大学大学院海洋生命科学研究科)
- (一般の部) 早川 淳 (東京大学大気海洋研究所)

**(2) 受賞者から報告～研究論文の概要と今後の取組・抱負～ 15:00~16:15**

発表 15 分

**6 参集者**

いわて海洋研究コンソーシアム会員等、岩手大学学生、一般の方

# 平成 30 年度岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業受賞者の決定について

## 【要旨】

県では、本県三陸沿岸への研究人材の集積や海洋・水産研究の活性化を図るため、平成 21 年度から若手研究者を対象に、三陸をフィールドとした研究論文を募集・表彰する「岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業」を実施しています。

この度、平成 30 年度の受賞者を決定しましたので、お知らせします。

## 1 受賞者及び受賞論文について

### (1) 岩手県知事賞(2件)：岩手県三陸海域を対象とした海洋研究として優れた内容のもの

部門	氏名	所属	論文タイトル
学生の部	こだま まさみ 小玉 将史	東京大学大気海洋研究所	大槌湾の藻場に生息するヨコエビ類の群集動態
一般の部	やまだ みわ 山田 美和	岩手大学 農学部応用生物化学科	大船渡湾から単離した微生物によるマンニトールを原料としたバイオプラスチックの生合成

### (2) 特別賞(3件)：今後の研究継続により、更なる成果が見込まれる研究又は独創性が高い内容のもの

部門	氏名	所属	論文タイトル
学生の部	あべ たかあき 阿部 貴晃	東京大学大気海洋研究所	岩手県に回帰するサケ親魚の温度順応に関する研究
学生の部	かたよせ ごう 片寄 剛	北里大学大学院 海洋生命科学研究科	岩手県越喜来湾のアマモ場における仔稚魚の出現動態と東日本大震災の影響
一般の部	はやかわ じゅん 早川 淳	東京大学大気海洋研究所	大槌湾におけるカモメ類によるエゾアワビ捕食の季節変動

## 2 審査経過

### (1) 応募状況

10 名 (学生の部 4 名、一般の部 6 名)

### (2) 岩手県知事賞・特別賞の選考

専門家及び有識者による選考委員会（別添名簿）において、論文及び口頭発表の審査を行い、受賞者を決定した。

第一次選考会（書面審査）9月 14 日（金）

第二次選考会（口頭発表審査）10月 23 日（火）

○論文の概要について

1 岩手県知事賞（2件）

【学生の部】

氏名	所属	論文タイトル
小玉 将史	東京大学大気海洋研究所	大槌湾の藻場に生息するヨコエビ類の群集動態

【論文要旨】

三陸沿岸の藻場に生息するヨコエビ類の群集動態を解明するため、本海域に広く優占する3種の植物群落を周年調査した。その結果、ヨコエビ類の群集構造やその変動様式は、植物群落ごとに異なり、さらに同じ群落内でも林冠と林床で異なることを明らかにした。群集動態の相違は、植物群落間や林冠・林床間における環境の差異に起因すると考えられた。加えて、本調査によって三陸沿岸から未記載種や未記録種のヨコエビ類を多数発見した。

【一般の部】

氏名	所属	論文タイトル
山田 美和	岩手大学 農学部応用生物化学科	大船渡湾から単離した微生物による マンニトールを原料としたバイオプラスチックの合成

【論文要旨】

廃棄海藻を利用したバイオプラスチックの微生物合成を目指し、本研究では、マンニトールを单一炭素源としポリ(3-ヒドロキシブタン酸) [P(3HB)]を合成する *Burkholderia* sp. AIU M5M02を見出した。さらに、本菌を用いてP(3HB)を高蓄積する培養条件を決定した。また、本菌はマンニトール以外の炭素源を用いた際もP(3HB)を合成し、多様な原料をP(3HB)合成に利用できると示唆された。

2 特別賞（3件）

【学生の部】

氏名	所属	論文タイトル
阿部 貴晃	東京大学大気海洋研究所	岩手県に回帰するサケ親魚の温度順応に関する研究

【論文要旨】

本研究では、秋遡上群主体の北上川と冬遡上群主体の甲子川のサケの温度特性を代謝速度によって評価し、順応様式を明らかにした。高水温期に回帰する北上川のサケは、甲子川のサケと比較して高い温度に順応し、集団ごとの温度特性はその集団の産卵生態を反映したものであることが考えられた。本研究によって示されたサケ2集団の温度特性は、今後のサケ資源の温暖化に対する応答予測の基盤情報となることが期待される。

氏名	所属	論文タイトル
片寄 剛	北里大学大学院 海洋生命科学研究科	岩手県越喜来湾のアマモ場における仔稚魚の出現動態と東日本大震災の影響

【論文要旨】

津波によりほぼ流失した越喜来湾浪板海岸のアマモ場が、残存地下茎の伸長等により経年的に回復したことが明らかとなった。このアマモ場では、震災前より仔稚魚の出現種数が減少したが2015年には震災前と類似した組成となった。定住種には、アマモ場の回復に伴つて増加した種も見られたが、復興工事等により減少した種もあった。また優占種の組成も変化したが、津波等の影響によるものと各海流の盛衰等によるものとに分けられた。

【一般の部】

氏名	所属	論文タイトル
早川 淳	東京大学大気海洋研究所	大槌湾におけるカモメ類によるエゾアワビ捕食の季節変動

【論文要旨】

大槌湾赤浜に位置する防波堤において、2016年4月から2018年8月まで、カモメ類の摂餌残骸を継続的に採集し、カモメ類による底生無脊椎動物への捕食、特にエゾアワビへの活発な捕食を世界で初めて明らかにした。カモメ類は底生無脊椎動物の中でエゾアワビを最も多く捕食していること、水面から水面下のエゾアワビの位置を特定して捕食すること、エゾアワビの捕食は冬季から春季にかけて特に活発であることが本研究で示された。